

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	三島市児童発達支援事業所		
○保護者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32 (回答者数)	30
○従業者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18 (回答者数)	18
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員がチームで支援に取り組み、1人ひとりの特性を理解・把握したうえで、共通理解のもと支援を行っている。	支援開始前や終了後、クラス担任で打合せ時間を設け共通理解に努める。 月に一回のケース会議で、全職員が、全園児のこと(あらわれやその時の支援のポイントなど)を共通理解する。	ケース会議での職員の意見交換や月1回を増やすことで一層きめ細やかな支援ができると考える。
2	幼稚園・保育園合築の園舎内にあるため、施設や園庭など共有させてもらえるようになってきた。 また、活動も一緒に行える場が少しづつ設けられるようになってきた。	2ヶ月に1回のこども園会議において、行事のすり合わせ等を行っている。また、年間行事の中に交流活動として、ポッチャ大会や一緒に音楽鑑賞などを入れている。随時施設の貸し借りや活動への参加したい旨を伝えている。	交流の場を増やすことと考えるが、環境の変化に対応できない子供も多くいるので個別のあらわれから、遊びへの参加を依頼し、経験を重ねていく。
3	駐車場を挟んでセンターがあるため、センターの専門職員との関わり、指導が受けられる、	週に2回粗大運動を中心に作業療法士の指導を受けている。週2回は、1クラスを2つにわけて少人数で行っているため、個別には、月に1回か2回となってしまう。また、お口の体操と言って、言葉について指導を受けている。	間近で指導を見ていたり、一緒に支援している職員が、活動の中で取り入れていくようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域に開かれた事業所運営まで至っていない。	保護者の考えや思いがどうなのかと思い、地域に開かれた運営としてどのようなことができるのかとまらずにいる。	
2	保護者会やきょうだい参加のイベント等の設定。	就労し、事業所に預けている保護者が増えていたため、保護者への研修の会を設定してもなかなか参加者が集まらない。 また、きょうだい参加イベントについては、在籍している子供へのイベントまでは考えに至っているがきょうだいまでには至っていなかった。	
3			